

大阪労連・東日本大震災対策本部ニュース

NO.11 2011年 4月 4日

発行：〒530-0034 大阪市北区錦町2-2

大阪労連・東日本大震災対策本部

TEL 06-6353-6421 FAX 06-6353-6420

全国災対連 大震災共同支援センターニュースNo.1(4/1発行)より抜粋・編集

大阪からの救援物資が被災地へ!



みなさんから届けられた救援物資が4月1日、全国災対連 大震災共同支援センターの集積基地である埼玉県草加市から、宮城県、岩手県に向けて出発。夜通し走り4月2日(土)、宮城に63箱、岩手に51箱到着します。

表は、みなさんから届けられた救援物資です(※写真は集積基地での積み込みの様子。段ボールには「大阪労連」の文字が見えます)。

ボックスティッシュ、カップ麺、長靴・雨がっぱなど不足しています。リスト表の中で少ない物のご協力をお願い致します。尚、物資リストは現地からの要望に応じ適宜変更していく予定です。

みなさんから届けられた救援物資					
No.	品名	計	No.	品名	計
1	紙おむつ	10	19	ラップ・アルミホイル、ゴミ袋、ポリ袋等	6
2	粉ミルク・離乳食(保存のきくもの)	2	20	コンタクト洗浄液	0
3	おしり拭き	5	21	歯ブラシ・歯磨き粉	3
4	トランプなどの小型カードゲーム	0	22	洗濯用洗剤	2
5	大人用紙おむつ	14	23	軍手・ゴム手袋	8
6	トイレトーパー	58	24	靴下	5
7	ボックスティッシュ	14	25	下着(大人・男性用)	3
8	マスク	15	26	下着(大人・女性用・上)	4
9	紙コップ・紙皿・割り箸・スプーン・フォーク	2	27	下着(大人・女性用・下)	6
10	生理用品	16	28	下着(子ども・男性用)	2
11	タオル(サイズは不問)	32	29	下着(子ども・女性用・上)	2
12	使い捨てカイロ	1	30	下着(子ども・女性用・下)	1
13	シャンプー・石けん	9	31	飲料水	40
14	エコバック・手提げ袋	12	32	レトルトご飯・おかゆ	2
15	文房具類	5	33	カップ麺各種	5
16	食品保存用ポリ容器	0	34	乾麺各種(うどん・そば・スパゲッティ等)	2
17	耳かき・爪切り・綿棒・キズ絆等衛生用品	0	35	お菓子類(保存のきくもの)	4
18	長靴・雨がっぱ	0	36	コーヒー・紅茶・砂糖・ミルク	3
合計					293

全労連では、引き続き、岩手はもちろん宮城や福島など被災地へ救援物資を送るため、全国に物資の協力を呼びかけています。みなさまのご協力をお願いします。

リストの救援物資を、ぜひ、大阪労連までお寄せ下さい。順次、発送の予定です。

- ◆ 新品・未使用品に限ります。混雑は厳禁です。
- ◆ すべて段ボールに入れてください。
- ◆ 段ボールの大きさは、最大で60センチ×60センチ×60センチまで。小さくてもかまいません。
- ◆ 段ボールの上とヨコ3つの面に、No.と品名をマジックで大きく書いてください。
- ◆ 大阪労連へは平日の10時~19時の間に届けて下さい。

東大阪市職労「被災者へ息の長い支援を」

3/18から、4泊5日で仙台市の避難所で奮闘した保健師さんに、現地での活動の様態を聞きました。

「新潟空港から高速バスで仙台市に入りました。区役所で1泊、3泊は宿泊所を確保していただき、昼食用のおにぎりをつくってもらい、活動できました。震度6強を記録した宮城野区の高砂中学校が避難所。体育館でなく、浸水の被害のなかった2階以上の教室で、床にダンボールや毛布が敷かれていました。健康相談や心のケア、医療班への橋渡しなどを行いました。現地の養護教諭の先生とも連携してサポートを続けました。被災した人たちは、本当にがまん強く、多くのものを失った中でもじっと耐えておられたのが強い印象です。話を聞くと、重い病気や、持病の薬が切れていたりの人も。大津波の中をマイカーで必死に避難所まで逃げてきた人も、そのあと水に浸かり車は校庭から動かないままでした。

避難者は、昼間は床上浸水や破損した自宅の片付け作業、夜にはまた避難所に戻る日々。また、廊下に設置された安否確認コーナーには、他の避難所から入れかわり立ちかわりで被災者が訪れていました。

まだまだ先の見えない時期ですが、日常生活に戻していく今後が大変です。私たちがしっかり、息の長い支援を続けていくことが必要だと感じました。第2次派遣からは岩手県山田町に入って交替の保健師が頑張っています。」(大阪自治労連・東日本大地震災害対策本部ニュースNo.8(4/1発行)より抜粋・編集)

各単産・地域での取り組みをお送り下さい。大阪労連・東日本大震災対策本部ニュースで紹介させていただきます。